

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		家庭的な雰囲気の中で、また、住み慣れた地域でその人らしく暮らしていけるよう支援する理念を作り上げている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		職員会議、グループ会議等で理念に基づいた支援を検討するなど、実践に向けて取り組んでいる。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		ご家族には来訪時や、毎月1回発行する新聞などで、理解してもらえるように取り組んでいる。地域には敬老会、夏祭り、運営推進委員など、折に触れ事業所の理念の理解に向け取り組みをしている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。		散歩、近所の商店に買い物時、挨拶の励行など近所の人たちとの交わりを常に心がけている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	車椅子対応の利用者さんが増え、地域活動への積極的参加は難しいが事業所の行事に地域住民の参加を呼びかけるなど交流を深めていきたい。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		地元の研修会に積極的に参加し、勉強したことを町内会合の機会など役立てることが出来る様努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組み、意識とケアの質の向上に活かしている。また、評価の結果は職員会議で報告し、改善箇所などは具体策を検討している。	○	前回、課題としていた職員の休憩時間については、短時間だが交代で休憩の時間をとるようにしている。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	評価の結果については運営推進委員会でも報告したが、活発な意見が出るほどではなかった。	○	今後の運営推進委員会では、活発な意見交換ができ、それを活かせるようにしたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは連絡を取り合っている。	○	これからも、連携の重要性を認識したうえで、ケアの質の向上に努め利用者のご家族の支援に取り組みたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会などで学ぶ機会をもつようになっている。必要が生じた場合は、関係機関と相談しながら制度の利用について支援している。	○	成年後見人とは定期的に連絡を取り、利用者の健康状態、事業所の実践などを知ってもらって協力してもらっている。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修会には出来るだけたくさんの職員が参加できるようにしている。また、そのようなことがニュースになったときは、職員会議、毎朝のミーティングなどで取り上げ、改めて虐待ゼロの意識付けをしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用料金、体調悪化の場合の医療体制など、家族の不安要素については、丁寧に説明し同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	自分の考えをきちんと伝えられない利用者に対しては、少ない言葉と動作から意思を汲み取る努力をしている。意思表示が出来る利用者は、その都度苦情、意見など自由に話してくれる。	○	話してくれた内容については、それぞれの部門で検討し、より良いケアのために活かしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一度発行の『シャイニングニュース』で、写真、イラストを使い日頃の様子や行事風景などをご家族にお知らせしている。また、個々に健康状態ほかさまざまな出来事を書き、写真付きで送付し、喜ばれている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員への不満は管理者に割りとストレートに申し出てくれる家族もいる。	○	担当職員がよく話しを聴き対処している。それをユニット全体の問題としてとらえ、毎日のケアに役立てている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現場職員の意見や要望はリーダー会議で管理者に伝わる事が多いが、充分聞き入れてもらえないこともある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来る体制とは言えないが、ケアに支障をきたさないようにやりくりしている。陰で犠牲になっていることは多々ある。	○	ADLの低下に伴う現場状況を理解してもらい、柔軟な体制がとれるシフトが組めるような人員の確保をお願いしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動の際は、今まで築いてきたご家族との信頼関係と利用者への影響を十分考慮し、最小限になるよう努力している。	○	顔なじみの職員でのケアを心がけ、できるだけ異動のないようにしたい。働きやすい職場作りをし、離職者が無くなるような工夫をする必要性を感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外での研修には、業務に支障が無い限りできるだけ多く参加できるようにしている。	○	事業所内でも、資格を持つ職員による勉強会などを開き、ケアの充実を図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	『グループホーム研究会』の研修は毎回多くの職員が受講し、職員会議の場で報告、発表している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	昨年の評価の後、なかなか確保できなかった休憩時間を設けるなど、職員のストレスを軽減する努力をしている。	○	職員親睦会をもっと機能させ、明日もがんばるぞ！と思えるような職場作りをしたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得希望の職員には、協力体制をとっている。	○	資格取得の職員の努力を認め、ずっとここで働きたいと思える職場環境を作っていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者の希望の場所、希望の時間に面接し、十分に耳を傾け不安材料の解消、希望の受け入れの努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が不安に思えるところはどこなのか、どんなケアを求めているのかを把握し、信頼関係を築く第一歩となるよう話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人とご家族の状況と気持ちを把握し、あらゆるサービスを視野に入れた対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所にあたっては、まず見学に来ていただくなど、本人とご家族が納得のうえで利用してもらうなどの努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の昔話に耳を傾け、笑ったり感心したり、昔からの大切なしきたりを学んだりしながら支えあっている。	○	利用者の『昔取った杵柄』をたくさん教えてもらえるような楽しい関係を作っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	病院受診後は、ご家族に症状や治療内容を報告、また面会時は日頃の様子を伝え、ご家族の希望を聞きながら支えていくことを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会に来てくださるご家族が多く、理容院や買い物、通院同行などの機会がある。また事業所の行事などにも参加を呼びかけ、会う機会を少しでも多くとれるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や親戚の方の面会がほとんどで、馴染みの場所などの継続はなく、それに対する支援はしていないのが現状である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に声かけをし、一人だけ孤立することのないよう見守っている。個別に話を聴き、職員が調整役になっている。おやつ時間などは、職員も一緒にテーブルにつき、会話の時間を多く持つ努力をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所した利用者にもイベントの案内状を出すなど、継続した付き合いができるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で意思表示ができない利用者には、たくさん声かけし、顔の表情などから意思を汲み取る努力をしている。推測した内容はご家族に話し、協力し合い一番良い方法と思える支援をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族の面会時にこれまでの生活習慣など、できるだけ情報を得る努力をしている。	○	時間の許す限り、利用者のテンポに合わせて話し相手になりたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の行動や生活リズムを把握する努力をしている。その中から残存機能の継続を大切に、出来なくなってしまうことは支援し、少しでも思い出してもらえようヒント的な介助を試みたりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	体調に変化があったときはその都度、それ以外でも月に一度カンファレンスをし、介護計画の見直しを検討している。ご家族の面会時には、要望などにも耳を傾け介護計画に反映させる努力をしている。	○	ご家族の面会が比較的多いので、たくさんの希望の取り入れをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランの期間内であっても、利用者の状況に変化が見られたときはカンファレンスを行い計画の見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録帳にその日の様子や、発した言葉、食事量、排泄チェックなどを記している。これらの情報の記録を徹底し、介護計画に活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の心身の状態を考え、往診もお願いしている。急変の場合は臨機応変の受診にも対応している。	○	容態の重度化の場合は医療連携体制を十分機能させ、利用者の生活を守る支援をしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	夏祭りなどイベントの時は、ボランティアの協力を呼びかけている。最寄の派出所には事業所の特性を説明し、万が一の場合の協力をお願いしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の体調と希望に合わせて、訪問理容美容、訪問マッサージのサービスなどを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケアマネが地域の研修や交流会などに出席、必要に応じて協働している、		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の定期的な往診を受けている。夜間の対応もあり、介護職員、家族との信頼関係も厚い。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入所前から引き続き専門医の通院をしている人、かかりつけ医の紹介で受診する人など、専門医の診療を速やかに受けられるようにしている。その場合は、ご家族に同行をお願いし、説明をうけるようにしている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師を配置しており、利用者の健康管理、体調の変化に応じた支援が行える。また、協力医の看護師とも顔なじみになっており、気軽に相談できる状況にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、それまでの支援内容、嗜好品の情報などを医療機関に提供している。入院後も職員が様子を見にいくなど、少しでも早く回復するよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に、重度化した場合の事業所としての対応の内容を説明している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人とご家族の気持ちを第一に考え、終末期であっても安心して過ごせるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅に戻りたいとの本人の強い希望で退所後すぐ入院というケースがあり、もう少し何とか家族と話し合いができれば説得のしかたがあったのでは、と思っている。	○	馴染みの家に戻りたい気持ちを理解しながら、家族との話し合い、調整を支援したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	記録や個人情報などは、外部の人間、他の利用者の目につかぬよう細心の注意をしている。また、失禁時の処理などは利用者のプライドを傷つけることのないよう、言葉には気を使っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の希望はペースに合わせてよく聴き、時にはご家族の協力を得、出来るだけ本人の意向に添うよう努力している。その日着るもの、飲み物などは選べるような工夫をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、その中でそれぞれのペースに合わせて自由に過ごしてもらっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	資生堂さんがボランティアで『お化粧の基礎講習』に来てくれ、女性の利用者がとても喜んでくれた。理美容は訪問サービスを利用しているが、昔から行き付けのお店に通う人もいる。	○	利用者が生き生き出来ることはどんどん取り入れ、楽しい毎日になるよう支援したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な下ごしらえ、食器洗いなどは利用者にも手伝ってもらうようにしている。また、回転寿司、ラーメンなど希望者と外食する機会もつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	緑茶、コーヒー、紅茶などその人が飲みたいと思う飲み物を提供している。事業所の夏祭り、地域の敬老会などでは飲みたい人はビールも楽しんでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導するなど、出来るだけ便器での排泄を心がけている。	○	よりスムーズな排泄のために、十分な水分と適度な運動、食物繊維の摂取に心がけたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望の入浴時間に合わせてお風呂を準備している。浴槽に肩まで浸かるのが好きな人は職員二人がかりでの介助をしている。	○	もっと楽に入浴してもらうため、各種介護用品の上手な利用に取り組みたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	午後の昼寝、決まった時間の緑茶など、個々の習慣を大切にしている。消灯時間も夜勤者の都合に合わせてことなく、ホールでTVを観てくつろぐなど自由に過ごせるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物、読書、また魚屋さんだった人には鮮魚の処理など、それぞれ出来ること、やりたいことをしてもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があれば一緒に買い物に出かけ、物を選ぶ手伝いをし、本人から支払いしてもらうなど、社会とのつながりを大切にしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自分の食べたい物、必要な衣類、また読みたい小説や雑誌などの買い物に出かけている。近くの公園までの散歩などは外気浴のためにもよく出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	春の桜、夏はアジサイ、ふじ、秋は紅葉・・・など季節ごとの外出を楽しみ、時には『外食の日』を設け、折に触れ社会に出かける機会をつくっている。	○	今後もそれぞれの希望を取り入れ、季節ごとの見学、食事会などは続けていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話したいとの申し出の場合は、深夜、早朝でない限り希望の時間に本人がかけられることができるように支援している。家族からかかってきたときは、プライバシーに配慮し、ゆっくり話せるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	知人、家族が来訪されたときは、当事者が一番話し易いと思える場所(ホールでも居室でも)で、職員が必要以上に介入することなく、ゆっくり過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒などの恐れがある入居者の徘徊には職員が常に付き添い、身体拘束することなく安全に配慮している。	○	今後も身体拘束ゼロのケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	行動範囲を限定せず、自由に、かつ安全に共有スペースや庭に出入りできるように介助、見守りをおこなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の行動を把握できるように、ホールにはいつも職員がいるようにしている。夜間も居室入り口や廊下が見渡せる場所で見守りしている。また、時間を決めて巡回し、安全に十分な配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物を扱うときは、その人の能力に応じて使用してもらいが、必ず介護員が見守っている。針仕事も使うときだけに、必要な分だけ渡し終わったら返してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状況に合わせて、事故の予防策をたてている。 ヒヤリハットの記録から原因を探り、再発防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	119番ファイルを作成し、救急時に対応できるようにしているが、定期的に応急手当の訓練はしていない。	○	勉強会などで、職員全員が応急手当の方法を習得する機会をつくりたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	半年に一度、専門業者の指導で、利用者、職員全員で消火器の使い方を含めて避難訓練をしている。	○	万が一の場合に備え、毎月の『シャイニング新聞』を町内会にも回覧するなどして事業所の様子を知らせていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時これから起こりうるリスクに対して、家族と十分に話し合っている。 『危ないから……』と止めることより、何でもできる楽しさと充実感の大切さをわかっ てもらおう努力をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックをし、体調の管理をしている。変化が見られた場合は、早期に主治医に相談するなど悪化防止に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋はファイルし、職員全員が見ることができるようにしている。処方に変更があれば必ず申し送りをして、全員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェックをして、十分な水分と散歩など適度な運動をおこなっている。 食物繊維を充分摂取できるようなメニューづくりをこころがけている。	○	冬季間は運動量が少なくなりがちなので、ラジオ体操や、関係雑誌に掲載されている健康体操などを取り入れたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後義歯を外し、洗浄とうがいのケアをしている。また、専門家による口腔ケアの研修もおこない、職員の意識の向上も図っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量と水分量がひと目でわかるようにファイルしている。また、すりおろし、刻み食などそれぞれの状況に合わせて食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザワクチンは家族に同意書をもらい、毎年接種をしている。ノロウイルスなどの食中毒に関しては、ペーパータオルの利用食事直前の手の消毒などで予防している。職員の知識向上のため、講習会などにも積極的に参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は使い終わったら除菌をし、清潔を心がけている。食材はできるだけ旬のものを使い、冷蔵庫を活用し、鮮度を落とさないよう努力をしている。冷蔵庫、冷凍庫の残り物のチェックは頻繁にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏の間はベンチやプランターを置いて、玄関前で休憩できるようにし花を植えて季節を感じてもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの壁に、季節感のある飾り物をしたり家庭でもそうであるようにカレンダーを貼ったり、居心地よい空間をつくる工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内の2ヶ所にソファを置き、好きな時間にくつろいでもらえるようにしている。ゴロ寝を楽しみたい人のために小上がりもあり、便利な場所になっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、今まで使用していた家具や座り慣れたソファを置いて、慣れ親しんだ部屋になるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温度計を設置している。また、時々窓を開けて空気入れ替えをしている。利用者と一緒に雑談しながらクローゼットの整理をして、匂いの原因のチェックもしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室や脱衣室に手すりを増設したり、洗面所の蛇口は便利さより、運動機能低下の防止のため、調子の悪くなった自動をやめ、あえて手動にするなど、少しでも自立につながる努力をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	新しい困難が増えたときは、どういうケアが本人のためになるのか職員で話し合い、不安材料の撤去、きっかけづくりなどさまざまなことを試している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植え窓から眺めたり、職員と一緒に草取りもしている。疲れたときはベンチで休み、狭いスペースだが野菜づくりもしており、畑起こしから収穫まで利用者が中心になってやっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

運営理念に掲げているように、家庭的な雰囲気で気軽に話し合える関係が利用者と職員、家族間でできていると思う。TVを観たり、新聞を読んだり、家庭での自然な流れが事業所にも流れている。この雰囲気はこれからも壊れることがない様、その中で利用者と家族に安心してもらえるケアを続けていきたい。